

話 題

日本放射線安全管理学会の設立

金沢大学アイソトープ総合センター

森 厚 文

本学会設立の必要性は、初代会長の西澤邦秀教授（名古屋大学アイソトープ総合センター長）を中心に数年前から検討されてきたが、平成13年初めに設立の機運が高まり同年3月に学会設立準備委員会が発足された。準備委員会では、学会の名称、設立趣意書、学会定款、学会のあるべき姿などについて真剣に討議され、平成13年11月7日に設立総会、記念講演会を開催するに至った。

設立の趣意は下記の設立趣意書に書いてあるとおりであるが、21世紀のキーワードの1つが安全だと思われる。20世紀における様々な分野において「安全」を無視、あるいは軽視した結果が、現在のさまざまな問題の誘引となっていると考えられる。放射線・放射能・原子力に関しても、当然ながら安全が非常に重要であるが、これまでは安全管理に関する業務はどちらかというと余り評価がされてこなかったのが現実である。しかし、これからは安全に対して十分考慮しなければ放射線・放射能・原子力などの利用推進を図ることはできなくなると考えられる。

さまざまな領域において放射線、ラジオアイソトープなどが利用されているがその放射線管理を実践する際に、学問的に研究すべき課題が数多く残されている。単に放射線管理は法令あるいはICRP勧告を遵守すればよいのではなく、学問的な研究成果に基づく科学的かつ合理的な安全管理の確立を図り、すなわち「放射線安全管理学」の重要性を社会に訴え、日本だけでなく世界に発信することが期待される。

□ 日本放射線安全管理学会設立趣意書

放射線やラジオアイソトープ(RI)は研究・教育・産業・医療等の諸分野において、基礎から応用に至るまで幅広く利用されております。放射線を用いることによって、他の手段ではなしえない多大な成果が各分野で挙げられて来ました。放射線やRIの様々な分野における積極的な利用は、放射線の安全管理に関する研究成果に基づいた適切な放射線安全管理の実践によってはじめて成り立つものです。その意味

で放射線安全管理は今日の文明社会を維持発展させて行く上で、必要不可欠な社会的インフラストラクチュアの一部を成していると言っても過言ではないでしょう。

放射線やRIの利用は広範囲の学術分野に及んでいることから、放射線安全管理に係わる研究成果は、各々の専門領域に立脚して設立された学会で分散して発表されて来ました。そのような学会には日本保健物理学会、日本原子力学会（保健物理・環境部会）、日本アイソトープ協会（主任者部会）、日本医学放射線学会、日本歯科放射線学会、日本獣医学会、日本核医学会、日本核医学技術学会、日本薬学会、日本医学物理学会、プラズマ・核融合学会、電気学会、日本放射線技術学会、応用物理学会（放射線分科会）、日本放射線化学会、日本放射化学会、日本放射線影響学会、その他の学会があります。このように、これまで放射線安全管理の現場で遭遇する実務に直結した学術的課題を、横断的に議論する共通の場が必ずしも備わっていませんでした。このような事情もあって、放射線安全管理学は未だ体系的な学問として確立していないのが現状です。

放射線安全管理学は密封RI、非密封RI、X線発生装置、加速器、原子炉、核融合実験装置、核燃料、その他の放射線源を対象に放射線安全管理システムの設計、構築、運用に必要とされる諸々の課題を取扱います。具体的な研究課題は、防護理論、放射線計測、環境放射能、環境放射線、被曝線量評価、被曝の低減、汚染・被曝事例と対策、遮蔽設計、排気・排水管理、放射線源管理、入退管理、飛散率・透過率、汚染検査、廃棄物処理、クリアランス等に関するものから、法理論、教育方法、リスクコミュニケーション、医療被曝在宅医療、危機管理、データ処理、画像解析、ソフトウエア、IT技術等々に至るまで多岐に渡っています。

このような状況にあって、分散している研究者が一同に会し、研究成果発表や情報交換が出来る場を提供することによって、この分野の一層の活性化を

図り、放射線安全管理実務の学術的基礎を考究する放射線安全管理学を確立することが強く望まれるところでもあります。そのためには、求心力となる専門の学会が必要であると考えます。

そこで、この度、志を同じくする者が集まって学会設立準備委員会を組織し、この分野に関わっている研究職、教育職、学生、技術職、技能職、事務職、行政職の方々、さらには放射線安全管理に関心をお持ちの方々に広く声をおかけして日本放射線安全管理学会を設立することとしました。

本学会では、会員の研究発表・情報交換の場として学術講演会・研究会等の開催、ならびに邦文および英文の学術誌を発行する予定です。これによって、この分野の研究の活性化を図り、特に英文誌を通して本学会がこの分野における国際交流の中核となることを目指します。また、このような学術活動を通して若手研究者の育成、放射線安全管理の質的向上、ならびに行政施策の高度化への寄与を図ることによって、社会的貢献を果たします。

平成13年9月

表 記念講演会プログラム

1 基調講演

「日本放射線安全管理学会の発足にあたって」

西澤邦秀(日本放射線安全管理学会会長・名古屋大学アイソトープ総合センター長)

2 特別講演

「放射線安全管理学の目指すもの」

森川尚威(元東京大学アイソトープ総合センター長)

3 パネルディスカッション(1)

「日本放射線安全管理学会の発足と将来展望」

パネリスト

飯田孝夫(日本保健物理学会副会長)

古賀佑彦(医療放射線連絡協議会会長・日本医学放射線学会防護委員長)

野村貴美(日本アイソトープ協会・主任者部会副会長)

大西俊之(日本放射線安全管理学会企画委員長)

山本幸佳(日本放射線安全管理学会編集委員長)

パネルディスカッション(2)

「日本放射線安全管理学の最前線を探る」

非密封 RI 分野：湯本康弘(岡山大学アイソトープ総合センター)

医療分野：岩波 茂(北里大学医療衛生学部)

核融合分野：宇田達彦(核融合科学研究安全管理センター)

加速器分野：榎本和義(高エネルギー加速器研究機構放射線科学センター)

放射光分野：小林克巳(高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所)